

5, 6年生「命の授業」



2月3日、館林厚生病院の助産師さんを講師にお迎えし、5, 6年生を対象に「命の大切さ、重さ」を体感する授業を実施しました。「受精卵より小さい折り紙に空けた針の穴」や「胎児の成長とともに変化する子宮の模型」を手にとって見たり、「新生児と同じ大きさ、重さの赤ちゃん人形」を抱いたりし、さらに「妊婦体験装具」を着用し日常の動作をしてみたりと体験を通して、自分たちの誕生とこれまでの成長を重ね合わせ、自他の命の大切さと育ててくれた親や家族の愛情の深さにも気付くことができました。

